日本の子どもの詩

沖縄

日本作文の会編

日本の子どもの詩

沖縄

日本作文の会 編

岩崎書店

日本の子どもの詩　47　沖縄

一九八三年六月二五日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　大川松利
印刷所　株式会社　K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社

発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1983 Nippon Sakubun no kai 〔分〕8392〔製〕108047〔出〕0360
—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「沖縄編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918
〜
1945

8 幸福の日暮
日がくれた
月の夜
とんぼ
9 わらび
とんぼ
ヘイタイサン
10 ニジ
汽車
くもの巣
砂糖ぬすみ
11 朝
座敷
豆
12 夕べの風
爪切り
雀
父
13 古手ぬぐい
かえる
はまべ
14 私の学校
あり
うさぎ
15 お月様
つばめ
おみこし
すずめ
16 今朝
えんとつ
赤ちゃん
17 秋
あひる
18 夕方
お人形
夏
19 おとうと
ねこ
雨
20 星
チョコレート
体育会
21 冬が来た
雨が晴れて

雨
牧志のせんしゅ
22 郵便屋さん
しずく

1945〜1959

24 雨ふり
あたらしいげた
たこ
25 日の丸
えんぴつ
26 くも
リレー
あられ
27 木枯
ちょうちょ
28 夏を待つ
春風吹いて

1960〜1969

30 B52こわい
B52こわい
マリンぶたい
31 B52
ブランコ
32 とうそうごやの人へ
ベトナム
ベトナム
33 B52
B52
34 ベトナムの人へ
B52
35 サクラの花
とんぼくん
36 うるさいね
塩つくり
B52
37 ゆくえ不明の少女
うるさいB52
38 沖縄の人々
B52

ねこ
にいさん 39
道
古くなったランドセル 41
与儀のガソリンタンク
沖縄の人だから 42
沖縄はだれのもの
B52てっきょ 43
外人住宅地
いかつり 44
毒ガス
雪を見たい 45
雑草
坂 46
平和
ふまれてもふまれても 47
竹の子
小鳥 48
村の冬
夜明け 49
島
夜道 50
空洞
太陽の願い 51
おとうさん 52

1970〜

たいふう 54
おかあさん
やぎのおちちを のんだ
おとうさん 55
さんごしょう
売られた牛
田んぼ 55
心の糸
お父さん
セミの声 57
校長先生
さとうきび 58
おとうさんとくびきり
思いやり 59
あぜ道
被害者 60
母 61
劇
ふきょう 62
春のおとずれ 63
いぬ

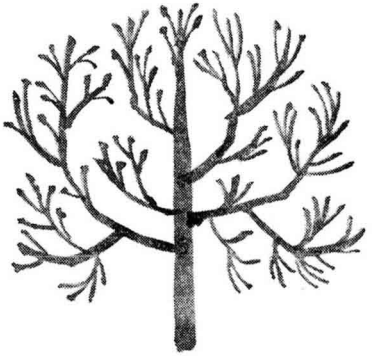
64 たいふう
65 すずめの子ども
66 雨
67 かたつむり
66 おかあさんのびょうき
67 みんなの頭
68 仲がいいんだな
69 ありのせんちょうさん
70 運転
71 岩
72 夕やけ
73 工事
74 一つの書き置き
75 タンポポ
76 父の手
77 水牛は力持ちだ
78 ねこのしんけい
79 たことり
80 沖縄県の平和のために
81 新聞はいたつ
82 ハーリー
83 身体障害児の子供
84 不景気
85 基地
86 守礼之門
87 おじいちゃんの後四日
88 働く母
89 米軍のトラック
90 先生のけっこん
のろまのかめ
さむらいがた
大すきなおじいちゃん
かいがら
つゆ
こおろぎ取り
ねこと人間
先生からもらったノート
おばあちゃんのしわ
かわいそうな人
いたずら
あく手の思い出
働き者の母ちゃん
茶わんあらい
文化の日
きび刈り
きびたおし
シーサー
静寂
きかいのもちつき
きねんしゃしん
えが にゅうせんしたこと
でかパンとちびっこパン

ふん、あのトラックめ
91 ぞうきんがけ
おとうさん
92 おひなまつり
93 弟
赤ちゃん
94 ああ無念
毒ガス
95 きゅうかん鳥
ビニールハウスではたらく母
96 おおみそか
97 ウチナー方言
赤ガワラの家
98 さとうきび
99 除夜のかね
自然がこわされていく

100 畑はいいな
101 父のいない家
負け犬
102 戦争と平和
田中正造
103 父ちゃん
きび畑の冬
104 図書室の古い本
105 今、考える事
106 冬の海

*

107 あとがき——沖縄県の児童詩指導の歩み
110 この本の編集をした人たち



1918～1945

（大正７年）　（昭和20年）

＊この年代の作品は日本の子どもたちが詩をかきはじめたころ。

＊沖縄県の児童詩教育は、全国的にみてかなりおくれた出発であった。

＊ようやく児童詩が生まれ、ひろがりをみせはじめたころ、満州事変を契機に戦争への道を歩まされ、児童詩の芽はつみとられた。

＊外国軍隊が国土に上陸して戦闘がおこなわれたのは沖縄県だけであった。校舎も文集なども焼失し、現在のところここにあげた作品だけが、やっと発掘された。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

幸福の日暮

宮良高夫　高2

恵の春は
静けきとばりの中に
船唄と共に沈みゆく
夜鳥の声
遙にきこゆ
晩鐘は
広き自由の天地にとどろく！
暖かき幸福の日よ！

八重山郡石垣校(指導)東門松永

日がくれた

大浜キヨ　小4

お山がくれた
日がくれた
子鳥かあかあ
ないて行く
とうさん
かあさん
かえるだろ
ぼうやと
いっしょに
まちましょう

八重山郡石垣校(指導)南風原千代／我那覇孫恭

月の夜

宮城みつ子　小6

さえた月の夜
何だか私は物さびしい
冬のさむい夜
お月さんも寒そうに見えた

八重山郡登野城校(指導)波照間永伴

とんぼ

糸満盛昌　小6

とんぼが私の前を通りました
大きな川の上を飛びました
水の中に尾のさきを

つけたりしました
きび畠の上をとんでいきました

国頭郡国頭校

わらび

照屋 音 小6

山に出た
わらび
谷に出た
わらび
山のわらびは
木を見てふとる
谷のわらびは
石見てふとる

国頭郡謝花校

とんぼ

仲宗根チヨ 小3

とんぼがとんでいる

二つは黄ろい
二つは赤い
黄ろいとんぼはねいった
赤とんぼはとんでいる
赤とんぼが
黄ろいとんぼを
おこしている
なんといって
おこしてる
もう、お昼すぎたよ
帰ろうと

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

ヘイタイサン

城田ハツ 小2

ヘイタイサンガ　ナランデル
テッポウカツイデ　ナランデル
ラッパガ　ナッタラ
一　二　三
テッポウカツイデ
ススンデユケ

島尻郡糸満校

ニジ

城田　均　小1

アメガフッタラ
ニジガデル
ニジガデタラ
アメガヤム
アメガヤンダラ
アソブノヨ

島尻郡糸満校

汽車

屋良朝亀　小4

汽車にのりました
でんしんばしらがうごいた
家がはしった
田も畠もみんなはしった

島尻郡高嶺校

くもの巣

新川文英　小4

風が吹いて
くもの巣が
しきりにゆれている
秋の夕方
木の上で
小鳥が
鳴いていた

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

砂糖ぬすみ

仲村大作　16歳

今は真昼のおやつどき、
誰もいませぬ静かだな、
車の音や叫び声、
いつかどこかで聞いたよで、
夢で見たよな気もするよ。
コロコロ円い砂糖だる、

カッと光ってまぶしいな、
どこかな、
なんだか音したよ、
やあ、砂糖をぬすみに
来ているぞ。
ほうれ音する、倉かげに
ちらり子供が見えまする。

那覇市西本町

朝

新川政子　小4

はみがきこがとぶ
だんだん明るく
夜が明けた
道も野原も
夜が明けた

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

座敷

新川政子　小5

ざしきに
お月様
さしこんでる
月の光で
ぐうぐう
ねこんだ

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

豆

徳原キクエ　小5

たねひとつ
おとした豆だったのよ
自分ではえたその豆は
緑色できれかったのよ
まいにち緑色で
大きくなったのだよ

中頭郡与勝校

夕べの風

狩俣寛忠　小5

夕がたから
大かぜが　ふき出した。
こちらへ
かぜが　ふいてくるたんびに、
僕のこころが
なんとなくしんぱいする。

宮古郡狩俣校(指導)友利清俊

爪切り

小波津鶴子　小6

はさみをもって叔母さんが
足の固い爪を切っていた
ぱちんと音立てた
鶏があわててとんで来た

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

雀

新川政子　小6

庭の枯木に雀が五、六羽
首をふりふり話し合う
私が聞こうと立ちよると
すぐにぱっととび立った

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

父

新川政子　小6

学校がえり
父にあった
私はしらんぷりしてとおる
友達私を見て笑った

中頭郡西原校(指導)与那城朝惇

古手ぬぐい

新川政子　小6

やぶれたやぶれた
古手ぬぐい
赤いほうせんかが
古くそまっている
何時まであのえは
よごれているだろう

中頭郡西原校

かえる

高良初喜　小2

毎日なくかえる
水の中や草の下でなくかえる
あなにかくれてなくかえる
人が通ればぴょんと、とんで水の中
通ったあとから、のこのこ出てきて
があがあなくかえる

那覇市垣花校

はまべ

津波古ハル　小3

しろいはまべに
あおいうみ
なみがきらきら
ういてくる
かぜもそよそよ
ふいてくる
はまべは大へん
いいきもち
おおきなふねも
小さなふねも
みんなゆらゆら
ういている。

那覇市垣花校

私の学校

謝花初子　小4

私の学校は涼しいよ
夏になっても夏知らず
学校の後は松林
前の方には海がある
私の学校は涼しいよ
後の林の松風や
前の浜辺の潮風(しおかぜ)が
ぴゅうぴゅうざあざと吹いて来る
私の学校は涼しいよ
林でせみが集って
どんなに大きくないたとて
私の勉強にじゃまはせぬ

那覇市垣花校

あり

金城清栄　小5

二匹のあり、どこいく
木の葉の上で、なにするの
おうちをわすれて
どこへいく
風でも吹いたらどうするの

那覇市垣花校

うさぎ

金城清栄　小5

うさぎの子供、どこいくの
小さな足でピョンピョンと
どこへ行くのか、かけまわる
おうちわすれてなきそうに
あちらへいったり、こちらへきたり
おうちはどこかとさがしてる

那覇市垣花校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com